

シグマ研究委員会

61年度第7回運営委員会議事録（案）

日時 昭和62年 1月19日（月） 13:30 ~ 17:30
場所 原研本部第5会議室
出席者 鹿園（委員長，原研）
梶山（東北大），中嶋（法政大），中沢（東大原施），
五十嵐，河原崎，長谷川（原研）
オブザーバー：飯島，吉田（NAIG），北沢（東工大），浅見，中川
（原研）

配布資料

1. 第6回運営委員会議事録（案）
2. 61年度旅費使用状況
3. JENDL速報 第1号
4. IAEA Advisory Group Meeting on NUCLEAR DATA FOR FUSION
REACTOR TECHNOLOGY
5. IAEA Specialists' Meeting on Covariance Methods and Practices
in the Field of Nuclear Data, with the cooperation of NEA/OECD
6. IAEA Advisory Group Meeting on Nuclear Theory for Fast Neutron
Nuclear Data Evaluation
7. 1988年核データ国際会議，Conference Topics and Invited Talks
8. 62年度シグマ研究委員会本委員（案）
9. 「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会設置要領（案）
10. 「昭和62年度年会」日程表
11. 核融合核データワーキンググループ活動状況
12. 重核データサブワーキンググループ
13. ガス生成，ガンマ線生成，中・重核データSWG状況
14. 崩壊熱評価ワーキンググループ作業報告
15. Activity of Decay Heat Evaluation Working Group
16. S62年度核データ専門部会ワーキンググループ構成（私案）

議 事

1. 前回議事録確認

資料1により前回(12月16日)会合の議事録の確認を行った。

2. 事務局報告

(1) 旅費使用状況

資料2により報告があった。

(2) JENDL速報の発行のアナウンスとともに第1号(資料3)の紹介があった。

(3) 資料4, 5の紹介があった。

3. Advisory Group Meeting on Nuclear Theory for Fast Neutron Nuclear Data Evaluation について

五十嵐氏から資料6のプログラムとともに柴田氏(原研)が出席予定であるとの紹介があった。また、出席希望者は科技厅の手続をとるので連絡して欲しいとの話があった。

4. Specialists' Meeting on Influence of Target and Sample Properties on Nuclear Data Measurements について

鹿園氏から、本年9月にGeelで行われるこの会議に水本氏(原研)が出席予定であることとともに出席希望者はなるべく早く岡本氏か鹿園氏に連絡して欲しいとの説明があった。

5. 原子力学会特別会合

梶山氏から資料10により原子力学会の62年度年会のプログラムの編成状況とともに、特別会合の日時等について説明があった。

6. 核データ国際会議準備状況

五十嵐氏から資料7により、核データ国際会議の準備の最近の状況について報告があった。その中で、国内向けの第1次案内を配布したことおよび招待講演についてコメントが約150件きたが、それを整理して修正案を作り再度プログラム委員に送った。これを最終案として講師候補者に連絡する予定であるとの説明があった。

7. WG活動報告

(1) 核融合核データワーキンググループ

神田氏に代って浅見氏から資料11により、WGの最近の活動状況、今後の予定等について報告があった。とくに、IAEAの核融合核データの諮問

家会議で話が出た核融合用統一ファイルについて議論があり、この活動への参加についてはWGでなくシグマ委員会として討議して決めるべきであるとの指摘があった。

(2) 重核データサブワーキンググループ

中川氏から資料12により、サブWGでの最近の作業状況について報告があった後、討論を行い次のような意見があった。

- ・ 同時評価でU-238の中性子捕獲断面積が大幅に変わったのは何故か
- ・ 同時評価のcross checkはやらないのか、同時評価のデータとコードを原研で入手して欲しい。
- ・ 同時評価の結果が動かせないのは問題である。

これらについては、ベンチマークテストの結果を見てから検討することになった。

(3) ガス生成核データSWG, ガンマ線生成核データSWG, 中・重核データSWG合同会合

飯島氏から資料13により合同会合での討議状況について報告があった。その中で、JENDL-3ファイル作成の手法の検討、評価上の問題・評価結果の検討の状況の説明ならびにレベル密度パラメータの系統性の作業結果の説明があった。

(4) 崩壊熱評価ワーキンググループ

吉田氏から資料14, 15によりWGの61年度作業状況および62年度作業案について報告があった。その中で、JNDC FP Decay Data Fileの第2版の作成状況、データの見直しを行った結果の実例等の説明があった。

8. 62年度専門部会活動計画

(1) 核データ専門部会

村田氏に代って飯島氏から資料16により、核データ専門部会の62年度のWG構成案の説明とともに2月13日に行う核データ専門部会のWGリーダ会合の予定について説明があった。その中で、JENDL-3データの検討のためには現在のWGがなくなると困ること、JENDL-3データのチェックのための場が必要である等の話があった。議論の中で、JENDL-3データの簡単なチェックは編集グループでやり、問題のあったデータをWGで検討するとの案が出された。また、来年度にisomer cross section評価のためのWGを作りたいとの意見があった。Feのガンマ線生成核デー

タの国際比較に関連して、公開前にJENDL-3を提供するときの名称について議論があり、

- ・公開前にJENDL-3の名称を用いると混乱をおこす。
- ・JENDL-3PRは混乱をおこしたと言われるが、JENDL-3の良い宣伝になった。
- ・名称は積極的に使う立場から検討して欲しい。

等の意見があり、編集グループで具体案をつくり運営委員会で検討することにした。

(2) 炉定数専門部会

長谷川氏からベンチマークテストの計画について説明があった。これに関連して、飯島氏から熱中性子散乱則WGの活動状況について報告があり、熱中性子炉のベンチマークテストについて議論が行われた。

(3) 核構造・崩壊データ専門部会

中嶋氏から核構造・崩壊データ専門部会の活動状況の概要について報告があり、その中で、核構造データWGは作業の性格から見て常置グループとした方が良いとの説明があった。

なお、JENDL以後の問題への取組みについては、核データセンターの計画を聞いた上で各専門部会で検討した方が良いとの意見が出た。

9. 62年度人事

浅見氏から62年度の本委員の名簿(資料8)について説明があった。これに関して、河原崎氏から本委員および運営委員を水本氏(原研)と交替したいとの申し出があり了承された。なお、水本氏には、次の本委員会で正式に承認されるまでは運営委員会にオブザーバとして出席してもらうことにした。

10. JENDL-3編集グループ打合せ会報告

浅見氏より、12月18日と12月23日に行った編集グループの会合について報告があった。

11. 「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会設置について

飯島氏から資料9により、「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会設置要領の案について説明があった。設置の主旨、検討および作業の主要項目、委員候補者等の説明があり、とくに意見があったら飯島氏または中嶋氏へ連絡し

て欲しいとのことであった。

1 2. 核データ研究会計画について

五十嵐氏から、来年度の核データ研究会をどうするかとの発議があり討議を行い、世話人候補に瑞慶覧氏（日立）が選出された。

1 3. 2年報

2年報編集の留任委員が長谷川氏と喜多尾氏であるとの説明があり、他の2名に瑞慶覧氏（日立）と水本氏（原研）を選出した。

1 4. 次期企画委員について

楢山氏から原子力学会の次期企画委員に中川氏を推薦したいとの説明があり了承された。

今回は3月6日（金）に原研本部で行う予定。